

実践事例⑩ 東大和市立第六小学校

1 取組・活動名

「障害者理解・ボッチャ体験活動」

2 取組・活動のねらい

- 児童がパラリンピック競技である「ボッチャ」の競技方法やルールを学び、実際に車いすに乗って体験をしたり、車いすを利用している方々と一緒に競技をしたりすることを通して、障害者を理解する心のバリアフリーを推進する。
- 児童が障害者スポーツを観たり体験したりすることを通して、パラリンピックや障害者競技への理解を深める。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・4時間」

4 実施上の工夫

- ・ 指導のための団体や道具の手配を地域の方にコーディネートしていただき、学校の考えと団体の指導方針との調整が円滑に行われるようにした。
- ・ 事前学習を通して、児童が競技内容を理解し、興味をもった状態で競技に臨めるようにした。
- ・ 近隣の高齢者施設の方々を本校に招き、日常から車いすを利用している方々との交流を深められるようにした。
- ・ 実際に、講義・体験・交流を行うことにより、ルールや道具を工夫することで、障害がある方も一緒に競技を楽しめることを体感し、障害者への理解を深められるようにした。
- ・ 保護者へも活動を公開し、学校の取組を地域へも発信した。

5 本取組・活動の内容



- ・ ボッチャは、ジャックボール(白)と投げたボール(赤か青)の距離の近さで得点が決まる競技である。
- ・ ボールをコントロールするのは簡単そうに見えて、実際に投げしてみると、とても難しいことが分かった。



- ・ 障害の程度に合わせた競技道具があり、一緒に競技を楽しむ工夫を知ることができた。



- ・ 地域の高齢者の方々とも一緒に競技を行った。
- ・ 実際に車いすに乗った状態からボールを投げてみると、いつもとは違う姿勢からの投げ方に戸惑う児童もいた。
- ・ ボッチャ協会の方に、たくさんのことを教えていただき、障害のある方も、高齢者の方も、みんな同じように競技を楽しむことができる大切さを学んだ。



6 成果

- ・ オリンピック・パラリンピック競技に対しての興味・関心を深めることができた。
【児童の感想】 「これからはボッチャを応援しようと思いました。」
「どんな人でもできるので、だれに対しても優しい競技だなあと
 と思いました。」
「いろいろな障害がある人でも、その人に合わせてできるスポーツだということが分かりました。」
- ・ 活動を通して、児童が競技内容を理解することができた。
【児童の感想】 「簡単そうだと思いましたが、実際にやってみるととても難しく、
 教えてくださった人はすごいなと思いました。」
「ボールが重く、自分がねらったところにうまく投げられないことが分かりました。」
- ・ 活動を通して、児童が障害者の方々の気持ちに寄り添うことができた。
【児童の感想】 「車いすを使って生活している人も競技を楽しむためのルール
 や工夫がたくさんあって、びっくりした。こういう工夫をすることが大切なんだと思いました。」
「車いすで障害のある人と協力してできたことがよかったです。」